2022年度　環境経営レポート

（対象期間：2022年6月1日～2023年5月31日）

株式会社 吉岡建設

発行日：2023年8月21日

エコアクション21

認証番号0010936

目　　次

１．会社の概要	・・・	Ｐ２
２．主な環境負荷の実績	・・・	Ｐ２
３．対象範囲（認証・登録範囲（予定））	・・・	Ｐ３
４．推進組織図及び役割・責任・権限	・・・	Ｐ３
５．環境経営方針	・・・	Ｐ４
６．環境経営目標	・・・	Ｐ５
７．環境経営計画	・・・	P6
８．環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営計画	・・・	P7
９．環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	・・・	P9
10．代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・	Ｐ10

１．会社の概要

（1） 事業所名及び代表者氏名

株式会社　吉岡建設
代表取締役　　吉岡千秋

（2） 所在地

本　　社　兵庫県豊岡市三宅５７番地

（3） 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者　　代表取締役　吉岡千秋
環境管理担当者　　取締役　　吉岡慎二
連絡先　　ＴＥＬ：　0796-27-0637
ＦＡＸ：　0796-27-0635

（4）事業の概要

建築工事、土木工事

（5）事業規模

年間売上高　146百万円（2022／6月 ～2023／5月）

	本社
総従業員 2023.8.1現在	7人
延べ床面積	35.411㎡
敷地面積	190.900㎡

（6）建設現場等の概要　（2022／6 ～2023／5）

元請工事　5件
下請工事　1件

（7）会計年度　6月～翌年5月

２．主な環境負荷の実績

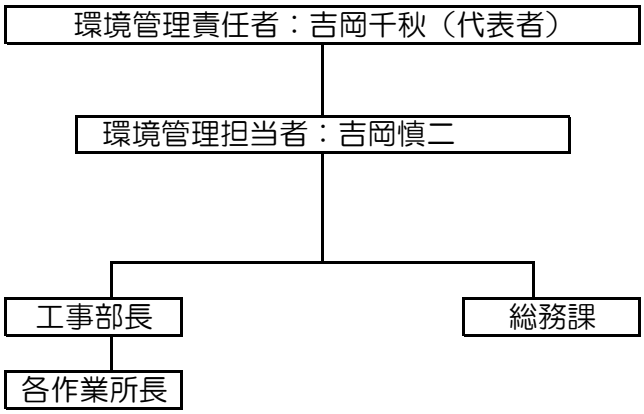
項　　目		単位	全社排出量		
			2022年度	2021年度	2020年度
二酸化炭素総排出量		kg-CO_2	67.454	84.853	62.113
廃棄物排出量		トン	319.63	62.12	219.29
	一般廃棄物	トン	0.2	0.34	0.39
	産業廃棄物	トン	319.43	61.78	218.9
水使用量		m^3	59	32	32

使用した電力の二酸化炭素排出係数；0.418 kg-CO_2/kWh（関西電力、2017年度の調整後排出係数）

３．対象範囲（認証・登録範囲）
事業活動：建築工事、土木工事
対象事業所：本社

４．推進組織図及び役割・責任・権限

【推進組織図】　適用範囲　：　株式会社　吉岡建設　本社、及び建設現場



【役割・責任・権限】

	役　割　・　責　任　・　権　限
代表者(社長)	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限をもつ ②環境経営方針を策定し、従業員に周知させる ③環境経営目標、環境経営レポートを承認する ④資源（人・もの・金）の用意をする ⑤エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者	①エコアクション21建設業向けガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる ②上記の結果を社長に報告する ③EA21文書類の承認をする ④環境委員会の委員長としてEMS全般の舵取りを行い、実行を推進する ⑤EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する ⑥環境への負荷の自己チェックを実施する ⑦環境への取組の自己チェックを実施する ⑧環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する ⑨環境経営レポートの作成
部門長及び全従業員	①自部門の環境経営目標、環境経営計画の達成と実績の把握を行う ②環境方針、自部門の環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する ③自部門に関連する環境関連法規制等を順守する ④自部門の教育・訓練を実施する ⑤社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑥自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
作業所長	①作業所におけるEA21実行責任者を兼ねる ②作業所の環境経営目標、環境経営計画の達成と実績の把握を行う

５．環境経営方針

株式会社 吉岡建設　環境経営方針

当社の経営理念の一つにある「地域に根差し、共に発展」に沿って、地域社会の発展に寄与する事業活動と、環境に配慮した事業活動を両立させる経営に努めます。

①「環境負荷」３つの削減
１．二酸化炭素排出量の削減
（電力・ガソリン・軽油）
２．水使用量の削減
３．廃棄物排出量の削減（※）

②「環境改善活動」３つの推進
１．環境活動ボランティアへの参加推進
２．二酸化炭素排出量の少ない混合セメント使用推進
３．重機、機械、設備更新による継続的な環境負荷低減の推進

③関係する環境法規等及び地元との約束を遵守します。

④本方針を全従業員及び協力会社社員に周知させ、社外へも公開します。

⑤環境経営の継続的改善

（※）は取組の重点分野

制定日：2015年 6月 1日
改定日：2021年10月29日
株式会社 吉岡建設
代表取締役
吉岡千秋

６．環境経営目標

No.	環境経営目標	基準年度 2018年度実績		2022年度目標		2023年度目標		2024年度目標	
1	電力使用量の削減 （本社） ※1 （排出係数） （CO_2排出量削減） 0.418	8,637	kWh	−4%	8,292	−5%	8,205	−6%	8,119
		3,610	kg-CO_2		3,466		3,430		3,393
2	自動車燃料使用量の削減 ガソリン （排出係数） （CO_2排出量削減） 2.32	4,026	ℓ	−4%	3,865	−5%	3,825	−6%	3,784
		9,340	kg-CO_2		8,966		8,873		8,780
3	重機燃料使用量の削減 軽油 （排出係数） （CO_2排出量削減） 2.58	37,477	ℓ	−4%	35,978	−5%	35,603	−6%	35,228
		96,691	kg-CO_2		92,823		91,856		90,890
計	二酸化炭素排出量の削減 ※2	109,641	kg-CO_2	−4%	105,255	−5%	104,159	−6%	103,063
4	一般廃棄物排出量の削減	450	kg	−4%	432	−5%	428	−6%	423
5	産業廃棄物の削減（リサイクル率向上）	94.5 ※3	%	−	94.5	−	94.5	−	94.5
6	水使用量の削減（本社）	32	m^3	−	30	−	30	−	30
7	環境負荷低減 ※4	1	件	−	1	−	1	−	1
8	混合セメント使用率の拡大	93.6 ※5	%	−	93.6	−	93.6	−	93.6
9	環境ボランティアの参加	1	回	−	1	−	1	−	1

（注）化学物質は使用していないため、目標に設定していない。

※1 電力の二酸化炭素排出係数：0.418 kg-CO_2／kWh（関西電力、2017年度の調整後排出係数）

※2 灯油の値は含まれていない。（使用量が少ないため、目標に設定していない）

※3 産業廃棄物のリサイクル率の向上：再生量(258.50t)÷発生量(268.48t)×100＝94.5%

※4 古くなった設備の更新、省エネ車両・機械の導入、省エネ施工の採用等

※5 混合セメント使用率の拡大：混合セメント使用量(2,521.75t)÷全体量(2,694.47t)×100=93.6%

７．環境経営計画

No.	環境経営目標	環境経営目標の達成手段	スケジュール 全期	春期	夏期	秋期	冬期	実施体制（責任者）
1	電力使用量の削減（本社）（CO_2排出量削減）	1.空調機の温度設定（夏期：28℃、冬期：20℃）			○		○	総務課担当者
		2.昼休みの消灯　3.不要照明の消灯	○					
		4.離席時のパソコン電源ＯＦＦ	○					
2	自動車燃料使用量の削減 ガソリン（CO_2排出量削減）	1.アイドリングストップの徹底　2.急加速、急発進の防止	○					総務課担当者
		3.法定速度の順守　4.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
3	重機燃料使用量の削減 軽油（CO_2排出量削減）	1.アイドリングストップの徹底　2.急加速、急発進の防止	○					工事部長
		3.法定速度の順守（ダンプ、トラック）	○					
		4.相乗りの励行（ダンプ、トラック）	○					
		5.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
		6.過度な負荷をかけないアクセルワーク（重機）	○					
	二酸化炭素排出量の削減	・NO.1～3 に従う						
4	一般廃棄物排出量の削減	1.リサイクルを意識した一般ごみの分別	○					総務課担当者
		2.コピー紙の裏紙使用	○					
		3.詰め替え容器のある商品の選択	○					
5	産業廃棄物の削減（リサイクル率向上）	1.建設廃棄物の分別徹底	○					工事部長
		2.不法投棄、不法処分リスクの無い処理業者への委託	○					
		3.保管基準の順守	○					
6	水使用量の削減（本社）	1.水の流しっぱなしの防止	○					総務課担当者
		2.節水ステッカー貼付による節水意識の向上	○					
7	環境負荷低減	1.不良個所や修理対象のチェック	○					総務課担当者
		2.省エネ性能の高い設備への更新を検討	○					
		3.グリーン商品に変えられる消耗品を検討	○					
8	混合セメント使用率の拡大	1.混合セメントの使用を発注者に提言	○					総務課担当者
		2.余裕のある工期設定で使用環境を整える	○					
9	環境ボランティアの参加	1.建設業協会で要請のあるものは必ず参加する	○					工事部長
		2.地域貢献として地域のボランティアに参加する	○					

８．環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営計画

No.	環境経営目標 （環境経営方針との関連）	環境経営計画に基づき実施した取組内容	評価 ※5	環境経営計画の実績 （2022年6月～5月）			次年度の環境経営計画
1	電力使用量の削減 （本社） （CO_2排出量削減）	・昼休みの消灯 ・空調設定温度の励行 ・部分消灯及びこまめな消灯 ・離席時のパソコンＯＦＦ	○ △ ○ △	単位 目標 実績 達成率 達成状況※6	kg-CO_2 3,466 3,000 116 % ○	・空調機の更新により大幅なエネルギー節約となった	・春、秋などはエアコンの使用時間を控えるエ夫をする
2	自動車燃料使用量の削減（ガソリン ） （CO_2排出量削減）	・急発進の防止 ・アイドリングストップ ・相乗りの徹底 ・適正空気圧の確保	○ ○ △ △	単位 目標 実績 達成率 達成状況	kg-CO_2 8,966 7,666 117 % ○	・エコドライブの意識が浸透した	・自覚教育などを通じて、更に意識を徹底させる
3	重機燃料使用量の削減（軽油 ） （CO_2排出量削減）	・アイドリングストップ ・作業内容に応じたアクセルワークの実施	○ ○	単位 目標 実績 達成率 達成状況	kg-CO_2 92,823 56,788 163 % ○	・アイドリングストップは定着した	・引き続き、作業内容に応じたアクセルワークの習得に努める
	二酸化炭素排出量の削減 ※１	No.1～No.3 に記載		単位 目標 実績 達成率 達成状況	kg-CO_2 105,255 67,454 156 % ○	No.1～No.3 に記載	No.1～No.3 に記載
4	一般廃棄物排出量の削減	・コピー用紙の裏紙使用 ・一般廃棄物分別の徹底による再資源化の推進	○ △	単位 目標 実績 達成率 達成状況	kg 432 200 216 % ○	・コピー用紙の裏紙使用が徹底した	・コピー機に裏紙専用トレイを設ける
5	産業廃棄物の削減 ※２	・建設現場での分別強化 ・処理業者の正しい選定 ・保管基準の順守	○ ○ △	単位 目標 実績 達成率 達成状況	% 94.5 99.9 106 % ○	・分別の意識が浸透した	・分別を更に徹底して金属くず容器を全現場に設置する

6	水使用量の削減	・水の流しっぱなしの防止 ・節水ステッカー貼付 ・節水意識の向上	○ △ ○	単位 m^3 目標 30 実績 59 達成率 51 % 達成状況 ×	・漏水箇所を点検 ・水の出しっぱなしを無くす	・散水は雨水貯留水や河川水を活用する
7	環境負荷低減 ※３	・修理対象のチェック ・省エネ性能の高い設備への更新を検討	○ ○	単位 件 目標 1 実績 4 達成率 400 % 達成状況 ○	・営業車、重機、事務機器などの更新をした	・営業車、重機などの更新を検討する
8	混合セメント使用率の拡大 ※４	・発注者に提言 ・余裕のある工期設定で使用環境を整える	○ △	単位 % 目標 93.6 実績 99.2 達成率 106 % 達成状況 ○	・発注条件により混合セメントを使用することができた	・工程を計画するときにあらかじめゆとりをもつようにする
9	環境ボランティアの参加	・要請のあるものは必ず参加する ・要請のあるものは必ず参加する	○ ×	単位 % 目標 1 実績 1 達成率 100 % 達成状況 ○	・河川の下流部の清掃に参加した	・地域ボランティアの窓口を探す
実施体制	・実施体制（環境管理責任者、環境委員会並びに各目標ごとに設定された実施責任者）は有効に機能しており、これを継続する					

※１ 灯油の値は含まれていない。（使用量が少ないため、目標に設定していない）
　　二酸化炭素排出量（総量）の実績 ＝67454 kg-CO_2（取組期間中）
※２ 産業廃棄物のリサイクル率の向上(実績)：100×再生量(318.98t)÷発生量(319.43t) ＝ 99.9%
※３ 環境負荷低減：バックホウ、営業車、複合機、その他小型建設機械など
※４ 混合セメント使用率の拡大：100×混合使用量(2,363t)÷全体使用量(2,382t)=99.2%
※５ 評価：○確実に実施できている　△時々実施できている　×実施できていない
※６ 達成状況：○目標達成　×目標未達成

９．環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

（１）当社に適用される環境関連法規等の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例等を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。また関係当局より違反等の指摘も過去５年間ありません。

（遵守評価日：2023年6月10日）

適用される法令等		主な遵守すべき内容　※	遵守状況
1	廃棄物処理法	処理業者との適正な契約並びに業者の許可証有効期限の確認	遵守
		マニフェスト伝票の管理（法定記載事項、照合確認、５年間保存）	遵守
		廃棄物置場の表示と保管基準の遵守	遵守
		マニフェスト交付状況の知事への報告（毎年6月30日までに）	遵守

2	建設リサイクル法	特定建設資材の再資源化（コンクリート、廃木材、アスファルト等）	遵守
		元請業者の発注者への再資源化に関する書面報告、並びに再資源化実施状況の記録作成と保存	遵守
		都道府県知事への事前届出の提出（工事着手の7日前まで）	遵守
3	騒音規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、85dB(A)を超えないこと	遵守
4	振動規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、75dB(A)を超えないこと	遵守
5	オフロード法	基準に適合した特定自動車の使用	遵守
6	排出ガス対策型建設機械普及促進規定	基準に適合した特定自動車の使用	遵守
7	建築基準法	居室の種類及び換気回数に応じて、内装仕上げに使用するホルムアルデヒドを発散する建材の 面積制限	遵守
		居室を有する建築物へのしろあり駆除剤、クロルピリホスの使用禁止	遵守
8	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	対象建設工事の届出	遵守
		再資源化の完了報告	遵守
9	建設工事公衆災害防止対策要綱	毎年１回、指定機関による検査を受ける（11条検査：(ｱ)外観検査、(ｲ)水質検査、(ｳ)書類検査）	遵守
		毎年１回、保守点検及び清掃の実施並びに記録の作成	遵守
10	消防法	防火管理者の専任（工場・倉庫・事務所は50人以上）及び所轄消防署長への届出	遵守
		消火設備の定期点検、消火器の有効期限少量危険物の届出、点検	遵守
11	フロン排出抑制法	空調機の簡易点検（３か月以内ごと）及び廃棄後３年間までの記録保存	遵守
		・廃棄時におけるフロン類の回収依頼書又は委託確認書の交付 ・回収依頼書又は委託確認書並びに充填回収業者が交付した引取証明書の３年間保存	遵守
12	道路法 道路交通法	積載基準の順守	遵守
		特殊車両通行許可証の提出	遵守

※ 紙面の都合のため、主要な遵守すべき内容を抜粋し、簡略的に記載しており、詳細は「環境法規制等一覧表兼順守評価記録」で管理している

（２）環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等は過去５年間、１件も発生しておりません。

（３）関係当局より違反等の指摘はありません。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成日：2023年8月18日
代表者：代表取締役　吉岡千秋
作成者：取締役　吉岡慎二

見直しに必要な事項		環境管理責任者の報告	代表者による評価	変更の必要性
環境経営方針	環境経営方針に示された環境への取組の基本的方向は現在も適切か	環境経営方針は適切である	環境経営方針は変更しない	□有り ■無し
環境経営目標及び環境経営計画	環境経営目標・計画の達成状況は妥当か ・課題とチャンス、・二酸化炭素排出量削減、・廃棄物排出量削減、・水使用量削減、・製品・サービの環境性能の向上	水道水使用量においては、舗装用冷却用水として上水が指定されているため、使用量が増えることとなる	環境経営目標のうち、水使用量の目標値を変更する	■有り □無し
その他の環境経営システム	・環境負荷の大きな変化 ・法規制等の遵守状況 ・教育・訓練の実施 ・外部からの苦情や要望 ・実施及び運用の適切性 ・緊急事態への準備状況 ・取組の確認並びに是正処置の状況 ・環境経営レポートの作成と公表、活用状況	その他の環境経営システムは適切である	その他の環境経営システムは変更しない	□有り ■無し
実施体制	実施体制は効果的であり、変更の必要性はないか	実施体制は効果的である	実施体制は継続する	□有り ■無し
前回の代表者指示事項のフォローアップ	一人一人が環境に関心を持って、社員一丸となって環境活動に取り組んでいくこと。また、日々の仕事の中で効率的、生産的な機械、工法に関しては社員間で共有し、積極的に取り入れていく。			
代表者の指示事項	水使用量の目標を変更し、現状に合った目標に変更する。 また、環境ボランティアや環境負荷低減については来年度以降増やしていくことを視野に活動していく。			
代表者の総合評価※	本年度は昨年、一昨年と実現出来ていなかった機械機器更新を重点的に行う事ができた。これらは省エネタイプを採用したため、燃料使用量の削減につながり、さらに環境負荷低減に寄与する。機械の変更や、施工方法の変更で増えた水使用量はこの先大きく減らすことが出来ないため目標を変更するが、その他の分野で省エネ施工化を採用する等して経営と環境活動を両立していきたいと考えている。			

※次年度以降への展開を重点に記載する